

自家用有償運送の導入・運用における課題解決の取り組み

～官民連携による地域交通の「共同化・協業化」～

日野自動車株式会社
ソリューション事業部

自家用有償運送導入に際しての課題

- ・自家用有償旅客運送の導入検討が増加
- ・自身で初めて交通を立ち上げるには様々な課題あり

自治体様のお悩み

立上げ前

制度を知らない / 分からない

制度を活用したいが
やり方がわからない

立上げ後

立ち上げた後の担い手の
確保が出来ない

日野の提案

制度説明から交通分析、
立ち上げまで伴走

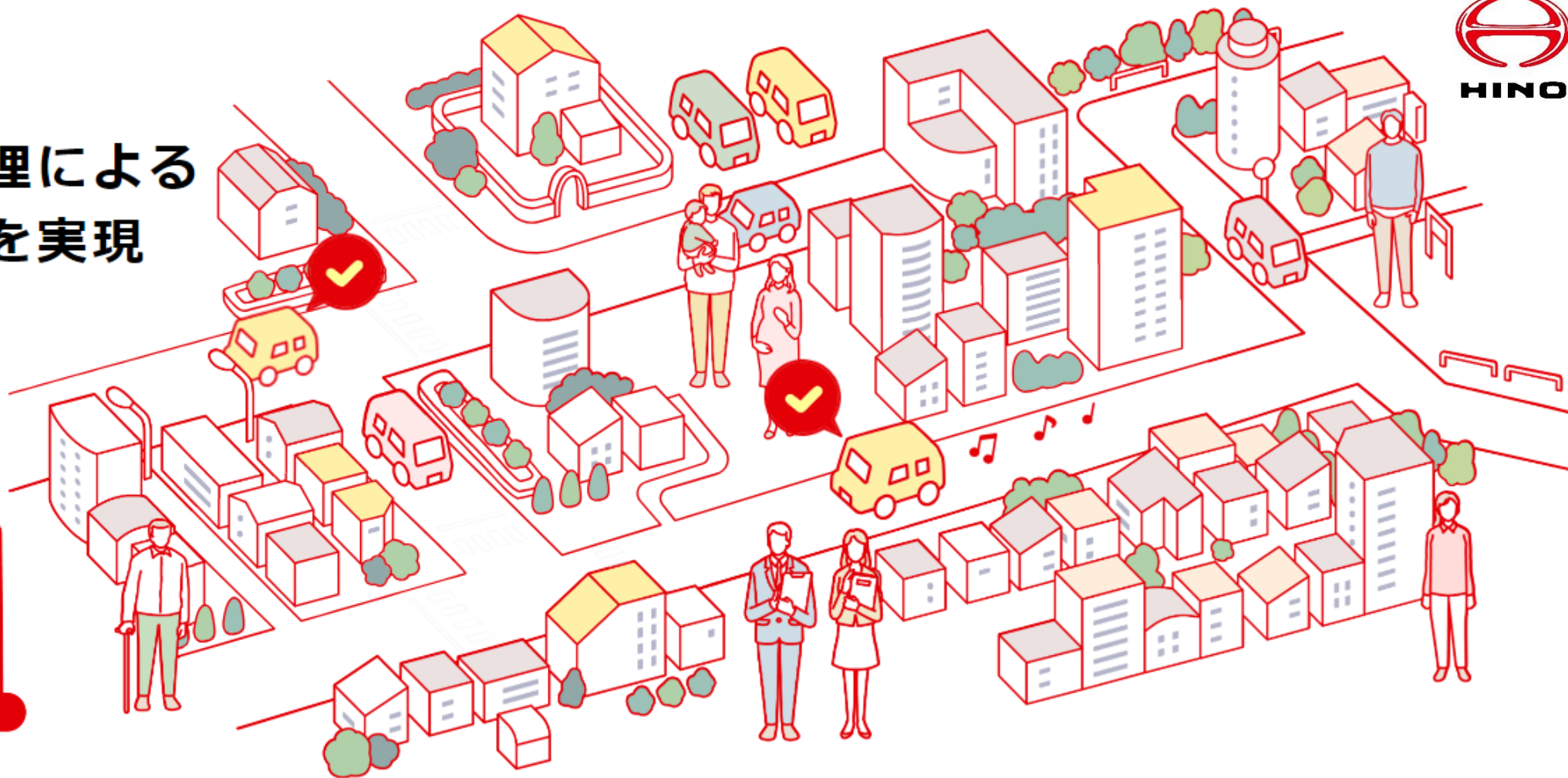
オペレーター業務を集約し
24/365対応を実現

交通の立ち上げ～運行を一気通貫でご支援

日本初※

遠隔運行管理による 自家用有償を実現

※日野調べ



自家用有償トータルサポート

自家用有償トータルサポート

／ 導入検討フェーズから運行開始後のオペレーション業務までワンストップ支援が可能！／

■運行立ち上げ支援サービス

▶自家用有償運送の新規立ち上げをサポート

運行形態の提案



大臣認定講習



高性能ドラレコ
(動態管理付)



RS専用保険



■運行管理受託サービス

▶選任要件を持つ専門人員が法定業務を支援



運行立ち上げ支援サービス

・地域の実情や困りごとや検討段階に合わせご支援、短期間で効率的な立ち上げを実現

導入検討フェーズとよくある自治体様のお悩み

1, 検討初期

2, 検討中盤

3, 運行開始前

- ・自家用有償の制度がわからない
- ・適切な導入事例、検討プロセスを知りたい

- ・地域に最適な運行形態の検討
- ・運行コスト、ドライバー報酬体系の立案

- ・自家用有償の申請に不安がある
- ・認定講習、車両、ドライバー、備品の手配

ご提案例

■ 自家用有償制度のご説明、事例ご紹介

■ 緑ナンバーと白ナンバーの違い

緑ナンバー ⇒ 事業用自動車
旅客や貨物の運送によって対価をもらうことを目的とした車両

白ナンバー ⇒ 自家用自動車
事業用自動車以外の一般的な車両。対価をもらって輸送することはいわゆる「白バス」「白タク」と呼ばれる違法行為

※平成 18 年に大きく改正され、自家用自動車で行うことができる有償運送が緩和されたことにより、白ナンバー車両を生活交通に活用しやすくなりました。

■ 運行形態の提案、コスト試算

【金機線図】

＜参考＞年間運行コストについて

項目	人件費	燃料費	車両費	その他	合計
運行コスト	69万	5.5万	20万	-	94.5万
補助(上限100万円)	-	-70万	-25万	-31万	-126万
①合計(市内負担)	25万	74万	116万	149万	364万
②1回あたり	10.6万円	31.0万円	48.4万円	62.0万円	152.0万円
③年間	3.6万円	10.6万円	16.6万円	21.3万円	52.1万円

■ 申請準備リスト、スケジュール作成、講習の出張開催など

項目	項目	詳細	方法
運行	パンフレット(実証告知用)	実施主体名、ワゴン名称、対価、目的地・出発地・運行経路、利用対象者、実証期間、予約電話番号	配布・車内掲示
	忘れ物リスト	任意	事務局内保管
	忘れ物保管場所	任意	事務局内
	バス停目印	任意	施設への張り紙等
	パンフレット(事務局・車内掲示用)	実施主体名、ワゴン名称、対価、目的地・出発地・運行経路、利用対象者、予約電話番号	事務局・車内掲示
	運転者証	必須	事務局内ダッシュボード掲示
	運転者証掲示ケース	任意	事務局内ダッシュボード掲示
	車両貼付用マグネット	必須	車両側面掲示
	登録証の写し	必須	事務局内保管
	タブレット	必須	事務局内保管
運行管理	実証開始前	通信SIM	事務局内保管
	実証開始前	通信SIM	事務局内保管
	実証開始前	アルコール検知器	事務局内保管

・ドライバーに次いで確保の難しい運行管理者の業務を遠隔で受託し、共同化・協業化を実現

主な業務

点呼実施・記録、安全運転指導、乗務結果の記録、事故処理の支援、

※太字が法定業務

運転者台帳の作成、実績報告書の作成、苦情・事故処理記録、シフト作成 など



乗務前点呼記録

確認日時 *
2023-02-17 11:02

運転者氏名 * 乗務者 *
[dropdown] [dropdown]

点呼方法 *
☐ 音声電話 (非対面) ☒ ビデオ通話 (非対面) ☐ 対面

疾病 * 疲労 * 乗務状態 * 乗務の服用 (車気) *
☐ 有 ☒ 無 ☐ 有 ☒ 無 ☒ 十分 ☐ 不十分 ☐ 有 ☒ 無

集約化

✓ 複数団体の一元管理により管理水準を一定に

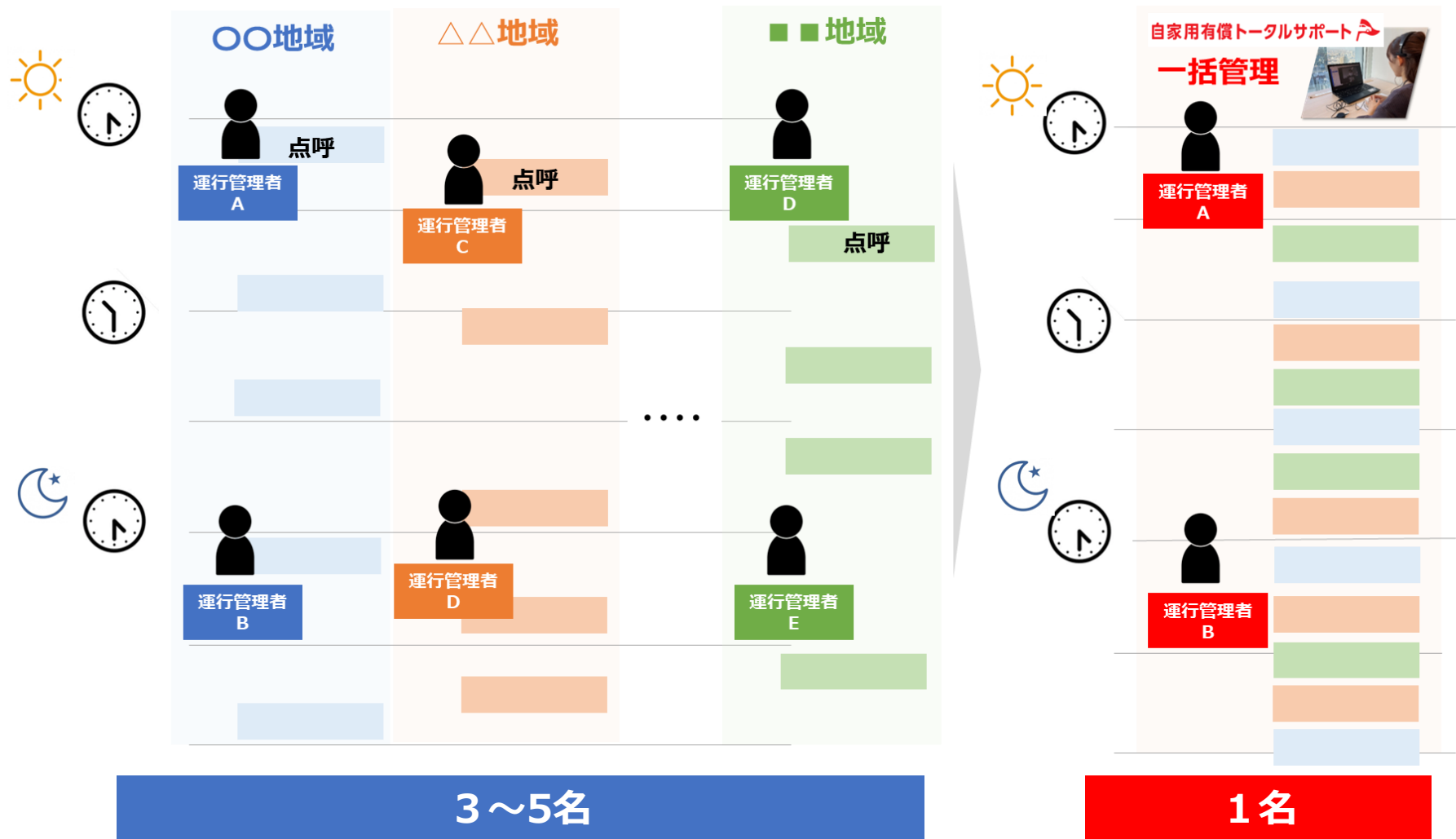
省力化

✓ 地域リソースを運転業務に集中

導入のメリット（遠隔運行管理の導入効果）

運行管理業務の集約により **管理者不足の解消** / **運行コストの低減**

さらには **管理水準の平準化** / **各地域での良事例を活かした運用改善** も見込める



導入のメリット（ご活用事例）

個別運営する市内6団体の運行管理業務を一括管理 （鳥取県鳥取市）



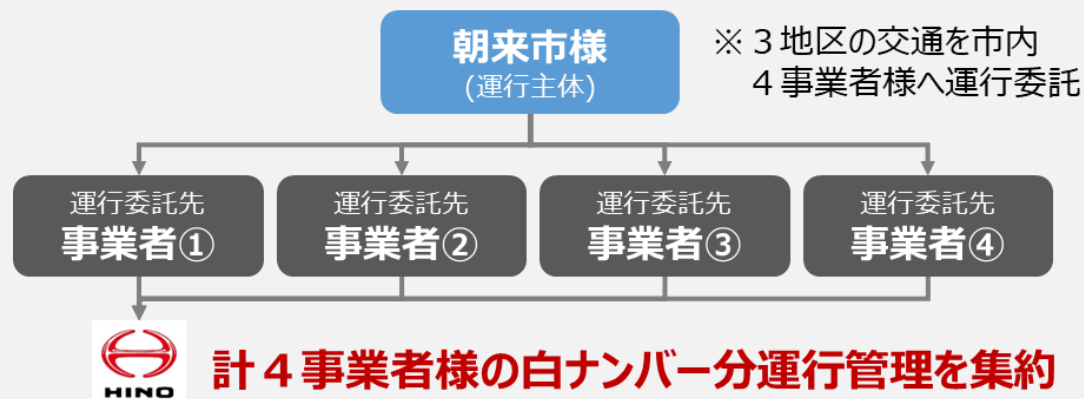
✓ 導入効果

- ・各地区で配置が必要な運行管理担当**6名が不要**
➡各地区で雇用した場合と比べ**約3分の1の費用**に低減

✓ お客様の声（住民団体代表様）

- ・早朝、夜の対応など**拘束時間も長く負担**
- ・法規改正に追いつくのが**難しい状況**、委託出来て助かった

運行委託先事業者4社の運行管理業務を集約 （兵庫県朝来市）



✓ 導入効果

- ・各事業者で行う**運行管理業務 約90時間/月**を低減

✓ お客様の声（地元タクシー事業者様）

- ・本業がある**中住民ドライバーの管理まで手が回らない**
- ・白ナンバーの運行管理の経験もなく**不安があった**

地方交通の持続化にむけて

- ・交通の立上げ、運行に必要な業務は多岐に渡り、自治体や一企業のノウハウ、リソースでは賅いきれない
- ・地域ごとに最適なパートナーと推進し低コストかつ持続可能な交通を実現、地方交通の存続に貢献したい



地域交通の持続には、住民組織や自治体、各企業の強みを活かした適切な座組みづくりが重要
共同化・協業化を後押しする施策の実施にも期待しております

これまでも、

そしてこれからも

公共交通を支える

パートナーでありつづけたい

当社の使命

『人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する』

本日はご清聴いただき誠にありがとうございました。